

保護者・地域の皆様へ

令和6年度 赤穂市立赤穂中学校

学校評価・学校関係者評価の公表について

先般実施しております「生徒アンケート」「保護者アンケート」の結果・分析を資料として、来年度に向けての具体的な取組や改善策を検討し、校内での自己評価を加味した内容を「学校運営協議会委員」の方々にご覧いただきました。本校が自らの教育活動を正しく評価できているか、また、適切な改善に向かっているかについて、様々なご意見を伺いました。

今般、それを「学校評価・学校関係者評価」として集約いたしました。ホームページ上にて公表いたしますので、保護者の皆様、地域の皆様方にご覧いただければ幸いです。

本校は来年度へ向け、積極的なタブレット端末活用を含めてICT教育を進めていくこと、人と人とのふれあいを大切にした教育活動に取り組み、学校行事・地域行事の

令和7年3月25日

赤穂市立赤穂中学校
校長 小溝 健二

令和6年度 学校評価・学校関係者評価

1 本年度の学校経営方針 ・ 重点目標

【学校教育目標】	【目指す生徒像】	【目指す教師像】
『志を持ち夢の実現に挑戦する、 自立する人づくり』 ～赤穂中学校の誇りを胸に、感謝の心と、 思いやりのあふれる学校をめざして～	校訓 『 明 け く ・ 淨 く ・ 直 く 』 【明けく】公明正大で、切磋琢磨して学習に真剣に取り組む生徒 【淨 く】心や行いがきれいで正しく、やましいところがない生徒 【直 く】素直で誠実な生徒	I 人権感覚を磨き、感性を高め、生徒一人ひとりを大切にする教職員 II わかる授業と学力向上への工夫と改善に努める教職員 III 生徒の気持ちに寄り添い、成長や発達を支える教職員 IV 生徒の良さや可能性を伸ばし、自己指導能力を育てる教職員 V 自分を磨き、高め、深め、教育のプロとして自己変革ができる教職員 VI PDCAサイクルによる全教育活動の検証・評価と勤務時間の適正化を推進する教職員

2 自己評価結果（A～D） A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

◆学習指導

【本年度の学校経営基本方針】
○「確かな学力」の育成を図るため「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた工夫と改善に努め、授業公開や研究協議などにより、教育活動の質の向上をめざす。また、学力の把握に基づいて、つまずきの解消や系統性を重視した指導を進める。

N0	評 価 項 目	A	B	C	D
1	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を促進している。	5 19%	21 81%	0 0%	0 0%
2	学力の把握に基づいた、つまずきの解消や系統性を重視した指導の充実を行っている。	6 23%	19 73%	1 4%	0 0%
3	I C T機器を活用した授業展開と学習形態の研究を行っている。	5 19%	13 50%	8 31%	0 0%
4	授業公開（相互参観・研究協議）と日常的な意見交換による授業力の向上を行っている。	5 19%	13 50%	7 27%	1 4%
5	「学びに向かう力」を育成する指導方法の研究を行っている。	2 8%	21 81%	3 12%	0 0%
6	＜G I G Aスクール構想＞教職員のスキルアップと効果的な授業展開の研究を行っている。	2 8%	14 54%	10 38%	0 0%
7	指導と評価の一体化の観点別評価を行っている。	6 23%	20 77%	0 0%	0 0%
8	わかる授業と学力向上への工夫と改善に努めている。	14 54%	12 46%	0 0%	0 0%
9	生徒の良さや可能性を伸ばし、自己指導能力を育てる取組を行っている。	5 19%	20 77%	1 4%	0 0%
10	自分を磨き、高め、深め、教育のプロとして自己変革ができる取組を行っている。	5 19%	21 81%	0 0%	0 0%

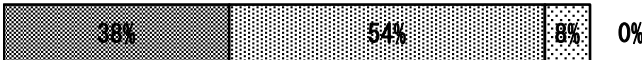
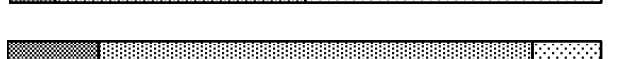
分 析 と 改 善 の 方 策

◆学習指導

- ＜成 果＞
- ・「わかりやすい」「楽しい」授業改善への意識は高い。
 - ・生徒のアウトプット(発表や文章表現など)を増やすことで学力が向上している。
 - ・不登校生徒への学びの場が確保できている。

- ＜課題＞
- ・生活習慣と学習習慣・学習意欲の関連への認識がない。
 - ・教師間の授業見学が不足している。授業を公開する機会も少ない。
 - ・特に書く力の指導など、基礎学力の定着が第一である。
 - ・使用環境への不安から、ICT機器やデジタル教材の活用が行き詰まっている。
 - ・わかりやすく、楽しい授業への考察が必要である。
 - ・教師のスキルアップの土台となる、教師の学力向上が求められる。
 - ・発表する機会をより望む生徒が多く、他方、質問しにくい生徒も多い。

- ＜改善の方策＞
- ・ネット依存と学力との関連について、正しく計画的に伝える工夫をする。
 - ・学力向上に結びつく校内研修の充実(教材、ICT機器)を考える。
 - ・授業交換や授業公開週間を設けるなど、意見交換や研鑽の機会を増やす。
 - ・アナログとデジタルの使い分けを考え、人間を主体としてそれぞれの強みを生かす。
 - ・「良い授業をすることが最大の生徒指導になる。」という意識をもつ。

◆生徒指導						分 析 と 改 善 の 方 策					
【本年度の学校経営基本方針】 ○個性を認め合い、支え合う共感的な人間関係のある学級づくりを推進する中で、主体的に考え、判断し、行動する生徒の育成を図る。 ○様々な視点から生徒理解を深め、心に寄り添った支援を通して、生徒に自己指導能力を身につけさせる。また、課題のある生徒に対しては教職員のチームワーク、保護者や関係機関との協働・連携によって生徒の発達を支え、課題予防に努める。 ○報告、連絡、相談を徹底することで課題に対して課題に対して迅速かつ適切に対応する学校組織の確立を目指す。											
11	生徒の心に寄り添い、成長や発達を支える生徒指導を行っている。	11	14	1	0		0%				
12	生徒の個性の発見とよさや可能性を伸ばし、自己指導能力を育てる生徒指導を行っている。	10	14	2	0		0%				
13	報告、連絡、相談の徹底を基盤にした、小さなSOSの早期発見に努めている。	11	14	1	0		0%				
14	いじめの早期発見と外部専門家と連携した組織的な対応を行っている。	6	20	0	0		0%				
15	不登校生徒の状況に応じた学びの場の確保と、外部機関と連携した自立支援の取組を行っている。	8	18	0	0		0%				
16	生徒が活躍できる場面を創り、一人一人が大切にされる居場所の確保を行っている。	11	15	0	0		0%				
17	生徒の基本的生活習慣は向上している。【見出し】	-	-	-	-						
	-①授業の態度・意欲	5	16	5	0		0%				
	-②あいさつ（登校時・下校時・授業前後等）	5	15	6	0		0%				
	-③登下校のマナー	2	11	13	0		0%				
	-④命を守るヘルメットの着用	4	19	3	0		0%				
	-⑤時間が守られている	6	18	2	0		0%				
	-⑥集会（学年・全校・行事）の集合・整列・私語・態度が取り組まれている	7	16	3	0		0%				
	-⑦清掃への取り組みができています。	2	16	7	0		0%				
	18	人権尊重の精神に基づく、いじめや暴力、差別を許さない学校文化の定着を図っている。	11	15	0	0		0%			
			42%	58%	0%	0%					

◆生徒指導	
<成 果>	
・服装や授業規律は落ち着いており、挨拶も良くなった。	
・明るい表情の生徒が多く、問題行動も減少した。	
・困っている人に寄り添える生徒が多い。	
・生徒と向き合い、保護者と連携した対応を心がけている。	
・生徒とのコミュニケーションは良好であり、温かい見守りの雰囲気や目がある。	
・校内の連携、外部機関との連携ができている。	
<課題>	
・SNSトラブルに起因する生徒間トラブルが増加している。	
・要求が過剰な保護者に向き合う必要性がある。	
・登下校時の事故発生が多く、校外でのマナーが悪い。	
・他学年の事案についての報連相が不足している。	
・清掃への取り組みに学年によって意識の差がある。	
・指導の基準が統一せずブレしているところがある。	
・担任を中心とした熱心な取組にもかかわらず、不登校生徒数が多い。	
<改善の方策>	
・生徒、保護者に寄り添い、きちんと伝えるために、伝え方の工夫を考える。	
・日頃からの声かけや会話を大切にし、良好な関係をつくる。	
・学年間での連携、報連相の充実させる。挨拶の仕方など、指導の基準を合わせる。	
・学校としての指導方針を共通理解し、思いやりをもって同一歩調で毅然として対応する。	
・PTAや関係機関と連携した安全確保への取り組みを行う。	
・研修や講演を通して安全の重要性を第三者からも伝える（SNSの生徒の実態も）。	
・生徒指導に特化した研修会を開催し、生徒との接し方、初期対応等について学ぶ。	
・状況に応じて、関係機関との連絡、連携が必要である。	

◆特別活動 ◆人権教育

【本年度の学校経営の基本方針】

○生徒会活動を中心とする自主的活動や仲間づくりへの適切な支援により、感謝の心や思いやりの心を育み、支え合い高め合う集団を目指す。

○人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤に、自分の大切さと共に他の人の大切さを認めることができる生徒を育成し、すべての生徒が安心して学習や集団活動ができる学校環境[人・物・心]をつくる。

19	J R C （青少年赤十字）態度目標『気づき、考え、実行する』の具体的活動の実践を行っている。	6	15	5	0	23%	58%	19%	0%	
20	奉仕、福祉、ボランティア活動などによる地域への貢献を行っている。	11	15	0	0	42%	58%	0%	0%	
21	地域人材・資源を生かした多様な教育活動の創造を行っている。	0	18	7	1	0%	69%	27%	4%	
22	オープンスクールの拡充と参観者の意見を活かす取組を行っている。	1	17	7	1	4%	65%	27%	4%	
23	ボランティア活動への理解と意欲の向上に努めている。	5	19	1	1	19%	73%	4%	4%	
24	コミュニティスクールによる「地域とともにある学校づくり」を推進している。	3	19	4	0	12%	73%	15%	0%	
25	地域の方々と生徒との交流の促進（あいさつ運動、地域行事への参加）を行っている。	2	21	2	1	8%	81%	8%	4%	
26	生徒が活躍できる場面を創り、一人一人が大切にされる居場所の確保を行っている。	2	24	0	0	8%	92%	0%	0%	
27	生徒会を中心とする自主的活動や集団活動への積極的な支援により、感謝の心や思いやりの心を育み、支え合い高め合う集団づくりの推進を行っている。	5	18	3	0	19%	69%	12%	0%	
28	体験活動の充実によるキャリア形成と、キャリアノートを活用する等キャリアプランニング能力の育成を行っている。	3	23	0	0	12%	88%	0%	0%	

◆特別支援教育の充実

【本年度の】

○特別支援教育の充実を図り、すべての生徒が認め合い、生き生きと学べる環境をつくる。

個別の教育支援計画・個別の指導計画の有効活用により、切れ目のない一貫した支援に努める。

29	特別支援教育の充実を図り、全ての生徒が認め合い、安心して過ごせる学校づくりを推進している。	8	16	2	0	31%	62%	8%	0%	
30	個性を認め合い、支え合う共感的な人間関係のある学級づくりの推進を行っている。	8	16	2	0	31%	62%	8%	0%	
31	「教職員の人権意識向上のために」（Human Rights）の実践と点検を行っている。	2	15	8	0	8%	60%	32%	0%	
32	校内研修の充実による生徒理解、指導力の向上を図っている。	6	15	4	1	23%	58%	15%	4%	
33	特別支援学級の生徒が、生き生きと活動できる学校環境の改善を行っている。	7	15	4	0	27%	58%	15%	0%	
34	個別の支援計画、個別の指導計画の有効活用による切れ目のない一貫した支援を行っている。	5	18	2	1	19%	69%	8%	4%	

分 析 と 改 善 の 方 策

◆特別活動 ◆人権教育

＜成 果＞

- ・生徒への居場所の確保が高い。人権意識が高い証拠だと思う。
- ・生徒会を軸に学校を動かそうという意図が見え、その姿で生徒が動いている。
- ・ボランティアなど生徒が活躍できる場の確保ができています。
- ・キャリア教育の指導ができています。

＜課 題＞

- ・地域との連携ができていない。地域人材の活用が難しい。
- ・行事毎の振り返りをせっかくなためにも、それらが活かされていない。
- ・生徒の居場所づくりにも改善の余地がある。
- ・JRC活動の実質が薄れている。専門部の活動の見直しが必要である。

＜改善の方策＞

- ・地域との意見交流の機会をもち、コミュニティスクールの意義を高める。
- ・PTAや関係機関と連携した安全確保。オープンスクールの活用。理想と現実の見極め。
- ・保護者と教職員との間で認識がずれている点もある。
- ・地域人材を生かした講演会等を実施する。
- ・担任と副担任の連携をより高めることでカバーし合える。
- ・行事の振り返りを叩き台にして、次にどう繋げるかを議論する風土をつくる。
- ・情性ではなく、自主的意欲的にできる専門部の活動を考える。

分 析 と 改 善 の 方 策

◆ 特別支援教育の充実

＜成 果＞

- ・交流学級でも安心して過ごせる学校づくりを進めている。

＜課 題＞

- ・通常学級で支援を必要としている生徒が多く、支援が不十分にできない。
- ・支援計画、指導計画の有効利用ができていない。
- ・「発達障害」や障害名が一人歩きしている現状がある。
- ・特支援業担当者の担当時間に偏りがある。
- ・「さん」づけができていないかなど、Human Rightsの実践と点検が必要である。
- ・校内研修の機会がより多くある方がよい。

＜改善の方策＞

- ・特支学級生について、担任のみでなく学年、全校で共通理解する。
- ・T2の有効利用を考え、授業にきちんと参加できていない生徒をきちんと導く。
- ・生徒らに特別支援についての正しい知識を伝える研修をもつ。
- ・Human Rightsを掲示する。

学校関係者(学校運営協議会)評価 R6

(A) 自己評価の結果について

- ・学校運営方針の重点目標のところの目指す教師像に対して、真摯に取り組まれ実践されていて、自己評価も妥当だと思う。
- ・学習指導や生徒指導において、多くの項目で「よくあてはまる・ややあてはまる」と評価されており生徒と向き合い真摯に寄り添っている様子が伺える。
- ・学習指導について、ICT危機を活用した授業スキルアップ及びGIGAスクール構想における評価の低さを観ると、苦手意識から不必要だと感じている職員がいるように感じられる。
- ・生徒指導について、「報連相」徹底がなされていない現状は学校現場ではあり得ない。

(B) 分析と改善策について

- ・現場での実践を踏まえての、分析と改善策を考えられていて妥当だと思う。改善の方策がうまく進むことを願っています。
- ・毎年同じ改善策ですのでコツコツと実績を積み上げていくしかないと思う。ただ、教職員の問題意識を向上し、職員室の雰囲気をよくすることで職員の働きがいに繋がると思う。
- ・子育てのためにも、地域全体で連携する重要性を感じた(幼小中高を含めて)。
- ・教師にはたくさんの研修や、教師間での情報共有を行う必要があるが、それらを行う余裕や工夫があるかが気になる。
- ・(参観日・オープンスクールについて)保護者同士の話し声が授業の妨げになっており残念に感じた。

(C) 課題と提言について

- ・中学生にとって学校の先生は親の次に一日で長く接する大人です。生徒の憧れや目指す大人であってほしい。
- ・先生方が授業や生徒指導など生徒と向き合う時間を十分に確保するためにも、保護者対応や集金、雑務的なことは外部委託や専門員に任せる方法を模索していったらどうか。特に、学校だけの問題ではなくなりますが、集金については、市から支給されている児童手当から差し引かれるということはできないか。これについては、市町村で判断できるようです。
- ・昔から授業は最大の生徒指導を言われています。その中で、保護者対応の多様さに忙殺されており且つ校区内の情報伝達の不備は致命的であるとされています。システム化するなり情報共有の円滑化を推進していくことが必要である。
- ・先生・生徒・保護者の信頼関係を更に密にしていってほしい。十年前以上と比較するのもおかしいですが、今の社会はすべてにおいて感謝の気持ちが薄く、なんでも当たり前と思い自己主張する傾向が強くなっているように思われる。だからこそ、学校として、もう一度未来のこととたちのために本当に何が大切なのかを先生たちが自覚することとともに、子どもたちの命と身体の安全を一番に考え、事態が起きた時にすぐに誠実に対応する信頼関係を築いていく必要がある。